国際ロータリークラブ第2730地区
日南ロータリークラブ
WEEKLY REPORT

会長 簗瀬　敦

＝ 簗瀬　敦 会長スローガン ＝

“ロータリーのマジックを信じ　地域にマジックを掛けよう”

■例会日：毎週水曜日　12：30～　　■例会場：ホテルシーズン日南
■事務局：日南市岩崎3丁目4番地1-2号 Itten堀川ビル2F　創客創人センター内
TEL：0987-22-3363 FAX：0987-22-3515

第３４２０例会	No.39	2025.5.14	
点鐘・ロータリーソング	12時30分　　「我ら日本のロータリアン」		
四つのテスト	菊池希樹君		
ゲスト	松田圭司様（株式会社日南造園土木）		
例会行事	委員会アワー　青少年奉仕委員会		

会長時間

本日は、三つの青少年奉仕についてお話しします。まずは、先日我々がホストクラブを務めた、ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）についてです。若い人たちが、リーダーシップを発揮したい、自分の可能性を広げたい、世界を変えたい。そんな考えを実現するための第一歩となるのが、「ロータリー青少年指導者養成プログラム（RYLA）」です。クラブまたは地区が実施するこのプログラムで、若い人たちが新しい友人をつくり、楽しみながらリーダーシップのスキルを磨いています。RYLA でできることは、地元で活躍する人や豊かな経験をもつ人たちと一緒にコミュニケーションや問題解決のスキルを磨く。学校や地元地域で活躍できるリーダーとなる方法を発見する。地元を動かすリーダーによる指導、意欲を高めるような講演、仲間との交流を通じた学びを通して、自分の可能性を発見し、行動へとつなげる。そして、楽しみながら、生涯続く友情を培うことです。実際の内容としては、RYLA のイベントは、14～30 歳までを対象として、地元ロータリークラブや地区によって開催されます。地元のニーズに応じて、1 日のセミナーから数日間の合宿まで、さまざまな形式が取られます。最も多いのは、さまざまなトピックのプレゼンテーション、アクティビティ、ワークショップなどを含む、3～10 日にわたるイベントです。参加対象はそれぞれのイベントによって異なります。リーダーシップの力を引き出すことを目的とした中学生対象のイベントから、創造性のある問題解決力を養う大学生対象のイベント、ビジネス倫理について学ぶ若い社会人対象のイベントなどがあります。次はインターアクトクラブです。世界に友だちを広げながらボランティア精神と国際感覚を身につけるというのが目的です。インターアクトクラブでは、12～18 歳の中学・高校生が、地元でのボランティア活動や海外のインターアクト会員との交流を通じて視野を広げ、国際感覚を養っています。ロータリークラブの支援を受けて設立されるインターアクトクラブでは、友だちと一緒に楽しみながらロータリーの「超我の奉仕」を学び、行動力を身につけます。インターアクトクラブはたくさんの可能性にあふれています。学校や地元地域でボランティア活動をしたりして、学校や地元地域でリーダーシップを発揮する人になることができますし、異文化について学び、国際親善に貢献し、楽しみながら、世界中に友だちをつくることもできます。インターアクトクラブは、少なくとも年に 2 回、プロジェクトを実施します。ひとつは学校または地元地域でのプロジェクト、もうひとつは国際理解を促進するプロジェクトです。インターアクターは、地元ロータリークラブからの指導と支援を受けてプロジェクトを実施し、リーダーシップを養います。最後はロータリー青少年交換についてです。私たちは異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらすことで、世界の平和を少しずつ実現できると信じています。世界 100 カ国以上で実施され

ているロータリー青少年交換は、ロータリークラブによる支援の下、15～19 歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、世界市民としての自覚を養うことのできるプログラムです。青少年交換でいろいろな可能性が広がります。自分で考え、率先して行動する力を育てることができるようになります。当然のことですが、外国語や異文化を学ぶことによって、海外の若者と交流し、友だちをつくることができ、グローバルな市民になれます。交換の期間としては、1 年間、数か月、数日といくつかあります。海外で 1 年間を過ごす長期交換では、複数のホストファミリー宅に滞在しながら、現地の学校に通います。数日間から数カ月間までの短期交換は、夏休みや春休みの期間中に行われます。多くの場合ホストファミリー宅に滞在しますが、世界中の交換留学生たちと合宿やツアーに参加することもあります。参加費用は、宿泊と食事代、学費はロータリーが負担します。そのほかの費用は地区やクラブによって異なりますが、通常、往復航空券、旅行保険、旅券とビザにかかる費用、小遣い、追加の旅行やツアーに参加する場合の費用などは学生が負担します。では最後に、先日の例会で、小玉会員がお話になられた、「源流の会」の中にありました、青少年奉仕についての談話を紹介します。以下は、源流の会　炉辺談話総集編　 No. 5　 2006 年 7 月 10 日よりの文です。参加資格など、現在とは異なっているところもありますがお聞きください。青少年交換の功罪 という題です。ロータリーでは青少年を外国に派遣する幾つかのプログラムを実施していますが、その代表的なものに、大学生や大学院生を対象にしたロータリー財団奨学生制度と、高校生を対象とした国際青少年交換プログラムがあります。 国際青少年交換が他のロータリーのプログラムと抜本的に違う点は、他のプログラムのすべてがその対象からロータリアンやその子弟を除外しているのに、国際青少年交換はロータリアン子弟をその対象に含めていることです。と言うよりも元来このプログラムは、ロータリアンがその子弟を外国のロータリアンに預け、その代わりに自分も外国のロータリアンの子弟を預かるという相互交換制度から出発したものです。二組のロータリアンの親が夫々の子供を交換して 1 年間面倒をみるのですが、何しろ精神的にも肉体的にもまだ未熟な子供たちが、言語も文化も環境も異なった異国で生活するのですから、その間には数多くの問題が起こります。気心の知れたロータリアン同志ならば、きっと実の子供と同じように、親身になって面倒をみてくれるに違いないという考え方で、種々の問題点を解決してきた経緯があります。しかし、その後、国際青少年交換プログラムがロータリアン以外の人たちにも開放されるにつれて、交換学生もホスト・ファミリーもその資質が様変わりしてきました。品行の悪さに注意したホスト・ファミリーに、ファイティング・ポーズをとって反抗した学生、ホスト・ファミリーの娘さんを妊娠させた学生、異文化になじもうとせず一人部屋にこもってパソコンに興じる学生等々、交換学生を巡る好ましくない話題は尽きることはありません。一方、受け入れる側も、ホームステイを引き受ける家庭が限られているために、ホスト・ファミリーを転々と変わらざるを得なかったり、それを生業としている家庭に依頼したり、ホテル住まいを余儀なくさせたりして、親としての立場から子供の面倒をみるという青少年交換の本来の趣旨からほど遠いものになりつつあります。

最近、ホスト・ファミリーがセクハラを行ったとして、多額の損害賠償を請求されるという不祥事が起こりました。これはアメリカの話であり、日本ではそんなことは起こらないと断言できるでしょうか。ホスト・ファミリーがロータリアンの家庭ならば、ロータリアンの資質の問題としてそんなことが絶対に起こらないように指導することも可能でしょうが、交換学生を引き受けてくれた一般家庭の人の資質まで、ロータリアンが責任を負うことは不可能かも知れません。

いたずらに、交換学生の数にこだわるのではなく、青少年交換プログラムの原点に戻って、その目的を再認識し、受け入れ環境を再構築する必要があるのではないでしょうか。そのためには ①ロータリアンの子女を優先する ②子女を送り出した家庭が、受け入れのホスト・ファミリーとなる ③有料の施設、ホテル等は利用しない ④地区やクラブに対する交換学生の強制的分配を避けることなどに留意する必要があります。 このプログラムを利用して海外の学校に留学した生徒は、国際感覚を身につけるという日本に居ては絶対に味わえない貴重な経験をします。その一方で日本の常識が、決して世界の常識ではないことを学びます。日本ではどんなに成績のよい生徒でも、総じて教室では寡黙で、当てられて初めて発言をしますが、外国では、発言をしないことは知らないことを意味します。知っていることは当てられなくても、自発的に発表します。交換学生もその術を習得して自己主張の楽しさを身に着けます。しかし自己主張という国際的な長所は、往々にして、日本の社会では鼻持ちならないと受け止められ兼ねません。一度海外生活を経験した子供たちは、いろいろな機会を利用して、再渡航したり、中には海外に定住する者も多いようです。これは海外の生活が快適だからではなく、日本の社会が帰国子女を受け入れようとせず、異質な存在として差別することも大きな原因となっています。ロータリーが、海外の生活の機会を与えたことが原因で、一方で、日本の社会では受け入れられない子供たちを作っていることにもなり兼ねないのです。

幹事報告

1．日本事務局より、５月のロータリーレートのお知らせが届いております。
　・ 今月のレートは、１＄ ＝ １４２円　となっております。 (前月のレートは、１＄ ＝ １５０円)
2．ガバナー月信５月号が届いておりますので回覧致します。
3．ロータリー希望の風奨学金より、”　風の便り　”　(通刊　126 号)が届いておりますので、回覧致します。
4．公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より、”ハイライトよねやま　№302 号 ”が届いております。

25-26 幹事報告

25-26 臨時理事会において承認されましたので、次年度７月例会より下記の変更を行います。

1. 昼食会場をホテルシーズンに日南１F “る菜” とします。
2. 各自昼食終了後、例会会場に移動し 12 時 45 分から例会を開始とします。
3. 例会の出席義務時間を 13 時 12 分とします。
4. 例会前に昼食を摂ることができない場合は事前に事務局に届けることにより例会後も可能とします。

例会行事

青少年奉仕委員会
委員長　花盛和也君

＝ 青少年奉仕委員会アワー ＝

国際ロータリー第 2730 地区　宮崎県南部・西部グループ
青少年指導者養成プログラムの報告

Rotary
国際ロータリー第２７３０地区
宮崎県南部・西部分区
ロータリー青少年指導者養成プログラム
RYLA
ROTARY YOUTH LEADERSHIP AWARDS
テーマ
「VUCA（ビューカ）な時代に求められるリーダー
※　VUCA：不安定、不確実、複雑、曖昧の意味
日　時　　２０２５年　４月５日（土曜日）
場　所　　青島青少年自然の家（宮崎市大字熊野字藤兵衛中洲）
主　催　　国際ロータリー第 2730 地区ライラ実行委員会
ホスト　　日南ロータリークラブ

去る４月５日（土）に青島青少年自然の家において「ロータリー青少年指導者養成プログラム」を無事に終了することができました。まずは、ホストクラブとして各業務を担当していただいた日南ＲＣライラ実行委員の皆様に心から感謝を申し上げます。年度初めの多忙な時期と重なり、研修生の参加が締切日までに６名しかなくて、開催に不安を抱えておりましたが、最終的には 17 名の参加を得ることができました。また、ロータリアン 27 名、ローターアクト５名、学友会４名の参加もあり、講師を含めて総勢 54 名での研修会となり、それなりの規模で開催することができました。１泊２日の予定から１日開催へ変更しての開催でしたが、歌声を交えての勢井由美子先生の心に響く講演、参加者全員で大いに盛り上がったアイスブレイク、「VUCA の時代に求められるリーダーとは？」のテーマのもと熱心な協議が展開されたワークショップと大変充実したひと時を過ごすことができました。実施後の地区ライラ委員長の藤原様から「ここ数年のライラの中でも最も充実した研修会でした」というお褒めの言葉を頂き、何とかホストとしての役割を果たすことができたのではないかと一安心した次第です。運営にあたっては、歓迎の挨拶や報告書の原稿依頼をお願いした簗瀬会長、プログラム所感と報告書での原稿依頼をお願いした峰松先生、写真撮影を担当していただいた菊池様、実行委員でないにもかかわらず参加いただき駐車場案内等を担当していただいた西田様、当日アドバイザーとしてワークショップをサポートしていただいた斎藤副会長、西島様、石灘様、井野畑様、講演者を紹介していただき、様々なご助言を頂いた竹井様に心から感謝を申し上げます。最後に、プログラム・報告書作成を始め多くの準備作業に懇親的に支えていただいた事務局の鷹衛様に心からお礼を申し上げ、ライラの報告とさせていただきます。

PS：わざわざ学校を訪ねて来られ「参考になればと思って」と過去のライラの報告書を持参していただいた日髙様にも感謝を申し上げます。

スマイル

田島　逸男君　今春の春の叙勲で図らずも旭日小綬章の栄誉に浴することができました。その節は多くのメンバー諸氏からお祝いのラインを戴き誠に感謝いたしています。今後は健康に留意しながら微力ではありますが、ロータリークラブをはじめ社会に恩返しできるよう精進していきたいと思います。有難うございました。

齋藤　奈々君　5/4　宮崎日日新聞の「ひなたスマイル」に掲載されました。いろいろな方にお声かけいただき、お店の宣伝にもなりました。

簗瀬　敦　君　息子の所属するハンドボールチームがクラブチーム九州選手権で３位に入り、青森で開催されるジャパンカップに出場することが決まりました。　優勝できた思える大会で少し残念でしたが、楽しませてもらいましたいということでスマイルします。

竹井　崇利君　ライラに出席できずに申し訳ありませんでした。当日は商工会議所の所用で犬山市に行っておりました。花盛委員長には、大変お世話になりました。　ご苦労様でした。

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	ＨＣ出席	ＭＵ	欠席	出席	出席率(%)
今　週	30	8(4)	26	23	2	1	25	96.15
出席免除	落丸、清水、古澤、渡邊、							
先取ＭＵ	甲斐、黒岩							
欠　席	榎木田							

委員会開催情報

４月１６日(金)三福屋にて広報委員会によるマスメディア交流会を開催しました。

出席者

マスメディアの皆様	
崎村順子様	日南市広報広聴係
秋吉啓介様	宮崎日日新聞社
三輪洋平様	MRT宮崎放送局
前田憲之様	時事通信社
橘　裕昭様	UMKテレビ宮崎
小林　準様	読売新聞

日南ロータリークラブ
簗瀬会長
石灘幹事
斉藤副会長
菊池広報委員長
河野広報委員
齋藤広報委員
西島次年度広報委員長

務局〒887-0014　日南市岩崎 3-4-2 Itten 堀川ビル 2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515
会長：簗瀬　敦　　副会長：斉藤篤史　　幹事：石灘寛樹　　雑誌会報広報委員長：菊池希樹
雑誌会報広報委員会より
情報、原稿は、admin.pmy06@honda-auto.ne.jp まで送信してください